

／頑張っています／

社会福祉法人の地域貢献

今回は、児童養護施設(福)大阪西本願寺常照園 大阪西本願寺常照園(吹田市／児童施設部会)の地域を支える実践を紹介します。

地域の困りごとを受けとめる

大阪西本願寺常照園(以下常照園)でCSWとして活動する高橋 宗近さん(たかはし むねちか)は、施設内で相談員や心理士などの専門職で構成されるチームのコーディネーターも担当し、施設児童の支援だけでなく、地域へ向けた施設の情報発信や、つながり作りに注力しています。

今回入った相談は、近隣に住む高齢者で本人は現在入院中。退院後も自宅での生活が難しく施設入所を予定しています。家族の支援が受けられないため、自宅の荷物の処分に困っています。そこでCSW、市社協、自治会や地域住民、関係機関とも協力し、自宅の片付け等を行うことができました。施設の公用車も活用し、軽トラ2台分以上の荷物の搬出を行い、その後本人は無事入所しました。



高橋 宗近さん

「は、施設の理解にもつながると考えています」。

高橋さんは振り返ります。「地域の役に立つことができ良かった。一緒に支援した住民の方には常照園はこんなこともしているんだと驚かれました。地域の相談を受け止め支援すること

施設運営と地域貢献の実践

「これから丸となり、常照園が地域に頼られる存在になつていきたい



小川 健二郎施設長

ですが、施設の運営や人員のことなど課題も多いです」と、小川 健二郎施設長(おがわ けんじろう)。

社会福祉施設の地域貢献(公益的な取り組み)の重要性は理解しているが、業務も多忙の中、どのような形で地域と関わっていくのが良いか悩みは尽きません。

その中で、常照園は吹田市社協施設連絡会の「吹田しあわせネットワーク」にも積極的に参画し、施設児童のアルバイトの悩みや卒園生の生活の困りごとについて相談するなど、施設種別を超えた連携や顔の見える関係づくりにも確かな手ごたえを感じています。

「将来の目標として、施設児童からも地域住民にも『常照園って良いな。頼りにしたいな』と、思ってもらえる施設にしていきたい」と、高橋さん。

どのように施設の取り組みや良さを知ってもらえるか。そのために、小川施設長と高橋さんは今後も創意工夫しながら、施設運営と地域貢献実践を行っていきます。

成人施設部会

救護施設で全国初の

取り組みから1年

昨年2月24日、吹田市居住支援協議会(以下、協議会)が設立されました。

事務局は吹田市住宅政策室と(福)みまの救護施設、千里寮に設置されましたが、救護施設に事務局が置かれるのは全国初となります。

設置の背景について木島 初正寮長(はつまさ)は「救護施設は、利用者の地域移行支援等、居住支援のノウハウがあり、設立後初動からスムーズな支援が実施できると考えた」と、語ります。そして令和5(2023)年11月10日現在、協議会が相談を受けた人数は39人、支援回数は212回にのぼります。

居住支援団体部会を設置

協議会には(福)みなと寮・(福)成光苑・(福)こばと会・(福)恩賜財団大阪府済生会・(福)吹田市社協の5居住支援団体が参画し部会を構成。住宅確保要配慮者(低額所得者・被災者・高齢者・障がい者・子どもを養育する者など)が民間賃貸住宅に円滑に入居できるよう、住宅情報の提供や相談、生活支援なども行っています。

事務局を担当する大西 睦(おほい とも)高さん(千里寮)は「各団体で、生活困窮・高齢・障がい等 得意とす



大西 睦高さん

る分野が異なる部分を生かし、これからも協力しながらきめ細かな支援を行っていききたい」と、これからの展望を語りました。



木島 初正寮長

住居の設定だけでなく、入居後のアフターフォローも行っており、新居での生活で困っていることはないか、生活が安定するようサポートも欠かせない協議会。今後の活躍に期待が高まります。

居住支援協議会とは

住宅確保要配慮者の民間賃貸住宅への円滑な入居を進めるため、物件の斡旋や契約を推進する。おもに地方公共団体、不動産関係団体、居住支援団体等で構成される協議会。